

2004年1月15日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治  
 コード番号 8233

## 2003年12月度 高島屋営業報告

**百貨店事業概況** 本年 -3.6 実質 -2.7 (前年比%) \*実質とは、米子店を含む前年対比

12月度は、先月から続いた月初の暖冬の影響と、月後半からはクリアランスセール待ちの傾向がみられ、紳士服、婦人服等、ファッション衣料が低迷した。また、年末・クリスマス商戦は比較的順調に推移したが、日曜日の1日減もあり全店計で-2.7%と前年実績を下回った。関西各店は早期割引実施による歳暮の11月への受注前倒しの反動で当月は前年を-4.7%下回り、関東各店は、郊外店の健闘がみられたが、前年には及ばず-1.3%という結果となった。

### 店舗別概況

関西	店舗別						関西計	
	大阪店	京都店	泉北店	岡山店	岐阜店	米子店	本年	実質
売上	-4.2	-2.9	-6.3	-5.9	-8.0	-17.3	-7.0	-4.7
入店客数	-1.1	-1.5	-1.0	-3.9	-5.6	-9.3		

\*大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

関東	店舗別								関東計
	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎店	
売上	-5.1	-0.9	-1.1	4.9	-3.6	1.2	1.0	-1.9	-1.3
入店客数	-9.0	-2.9	-4.5	5.1	-5.1	1.5	1.6	-6.9	

\*横浜店には港南台店の売上を含む

<店舗> 店舗別では、玉川店が12/5に新ブランドのオープンもあり引き続き好調なほか、歳暮ギフト・催が好調だった大宮店、また、時間延長(期間11/29~12/25)を実施した柏店では、婦人服が前比+7.9%と売上を伸ばすなど奏効し前年を上回った。一方、他店は前年を下回った。

### 広域事業概況

法人	通販	広域計
-9.7	-3.3	-6.9

<広域事業> 法人事業は大型物件の受注減により前年を下回った。また、通信販売事業はファッション、リビングの受注が鈍く、年末号(11/3発行)が苦戦し、年末特別号(11/24発行)ではおせち(前比+19.5%)など好調に推移したが、前年には及ばなかった。

### 総計

本年	実質
-3.8	-2.9

### 商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年		実質			本年		実質	
	本年	実質	本年	実質		本年	実質	本年	実質
紳士服・用品	-4.6	-3.6	身のまわり品	0.9	1.2	食料品	-4.6	-3.7	
婦人服・用品	-4.6	-3.3				食堂・喫茶	-8.2	-6.6	
子供服・用品	-3.2	-2.2	家具	-1.2	-0.2	雑貨	-3.7	-2.6	
その他衣料品	-5.6	-4.2	家電	-13.6	-13.2	サービス	-0.3	1.1	
衣料品計	-4.6	-3.3	その他	-11.7	-11.0	その他	18.2	19.5	
			家庭用品計	-9.2	-8.5	合計	-3.8	-2.9	

<店頭デベロップメント別> クリスマス商戦では特選衣料雑貨(前比+4.8%)が好調だったが、婦人雑貨(同-1.2%)は前年に及ばず、婦人服(同-4.4%)、紳士服(同-2.7%)、ハビィー・子供(同-2.8%)等は苦戦した。また、おせちが前比+7.1%と売上を伸ばしたが、お歳暮の前倒しもあり食料品(同-3.4%)も前年を下回った。

歳暮(前比): 関西9店計-3.6% 関東9店計+6.2% 全店計+2.3%  
 おせち(前比): 関西9店計+7.7% 関東9店計+6.4% 全店計+7.1%

以上